

zoom を利用した 授業録画の方法

2020年4月20日(月)

16 PAGES

はじめに	準備物など		
方法	1 スライドを利用 する方法	2 黒板やテレビ を利用する 方法	3 手元を写す 方法
おわりに	動画づくりを始める前に		

【本日の目標】

Zoomを利用した動画撮影の方法を理解する

①PC or スマホ



②ウェブカメラ or 書画カメラ or ビデオカメラ
※カメラ付きPC(タブレットPC)の場合不要

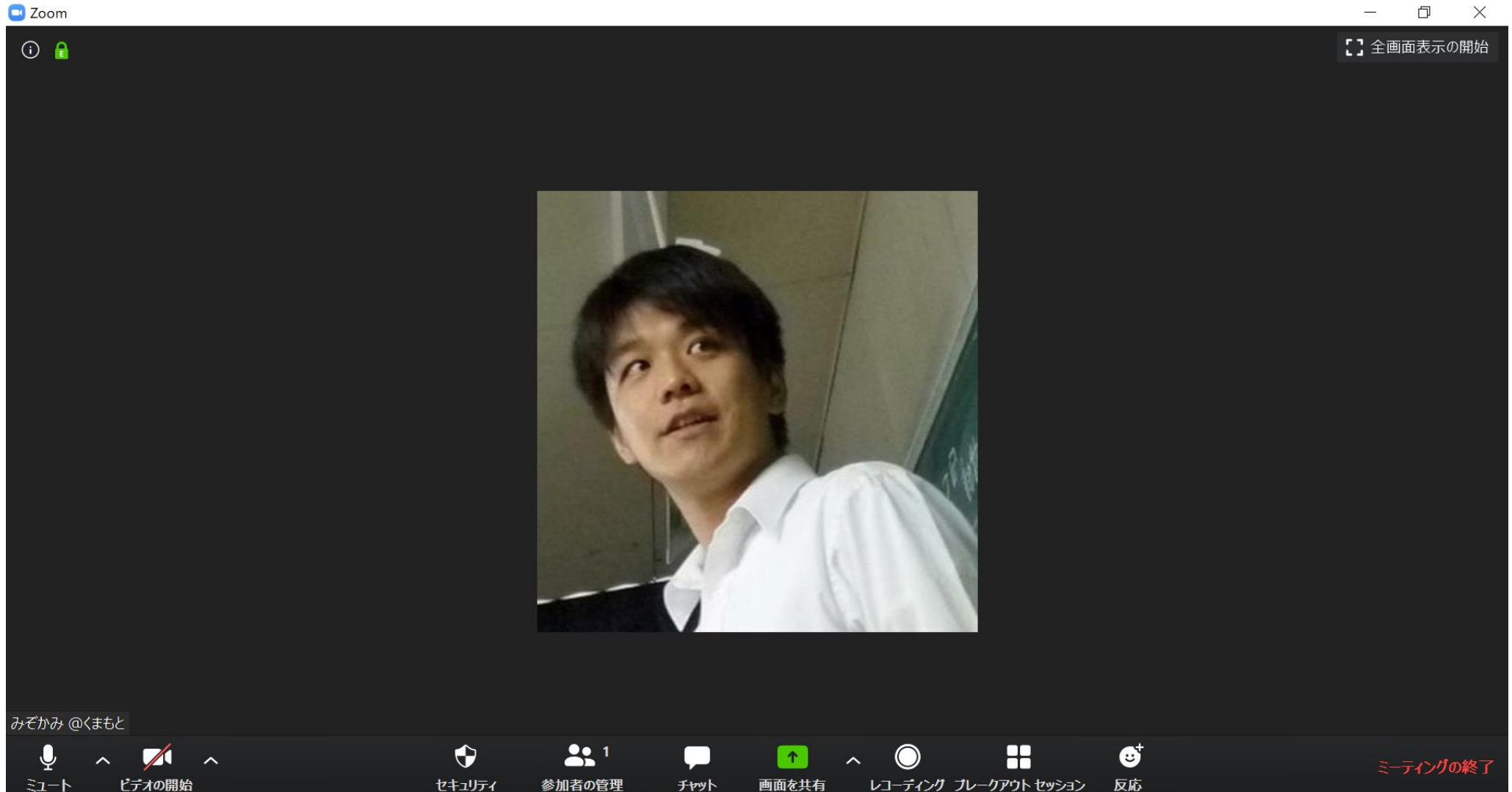
③スライドやプリントなど説明で利用するもの

④ZoomのHPであらかじめアカウントを作成

はじめに	準備物など		
方法	1 スライドを利用 する方法	2 黒板やテレビ を利用する 方法	3 手元を写す 方法
	動画づくりを始める前に		

【本日の目標】

Zoomを利用した動画撮影の方法を理解する



画面共有 ➤


⌵レコーディング

The screenshot shows a Zoom meeting interface. At the top, there is a toolbar with icons for Mute, Video Off, Security, Manage Participants, New Share, Share Temporarily, Comment, and Details. Below the toolbar, a green bar displays the ID: 942-1874-2041 and a red button for '共有の停止' (Stop Sharing). The main content area shows a slide titled '生物の授業で目指す姿' (Goals of Biology Class) with a table titled '評価尺度' (Evaluation Scale). The table has two columns: '優れている(◎)' (Excellent (◎)) and '良い(○)' (Good (○)). The table is organized by '評価観点' (Evaluation Perspective) on the left: '内容理解 知識の整理' (Content Understanding: Organizing Knowledge), '疑問を見つける' (Finding Questions), '知識を活用する' (Using Knowledge), and '協同的に学ぶ' (Learning Collaboratively). Each row contains two columns of criteria. A '詳細' (Details) menu is open on the right, showing options like 'チャット' (Alt+H), 'ブレイクアウトセッション', 'レコーディング' (Alt+R), '参加者の注釈を無効にする' (Disable Participant Annotations), '注釈者の名前を表示' (Show Annotator Names), 'ビデオ パネルの非表示' (Hide Video Panel), 'フローティングミーティングコントロールを非表示' (Hide Floating Meeting Controls) (Ctrl+Alt+Shift+H), 'コンピューターの音声を共有' (Share Computer Audio), 'フルスクリーンビデオクリップのための共有を最適化' (Optimize Sharing for Full-Screen Video Clips), and 'ミーティングの終了' (Alt+Q).

	優れている(◎)	良い(○)
内容理解 知識の整理	<ul style="list-style-type: none">重要語句同士を関連付けながら、自らの言葉で生命現象を説明できる。対になる語句や似た語句の違いを明確に分けた上で、説明できる。重要語句から生命現象を説明するために大切なものを根拠を持って順位付けができる。	<ul style="list-style-type: none">重要語句の関連性を意識しながら、生物現象を表現できる。対になる語句や似た語句の間に違いがあることが分かる。重要語句から生命現象を理解するために大切なものを選ぶことができる。
疑問を見つける	<ul style="list-style-type: none">理解出来ない部分を自ら明らかにし、分かりやすく質問ができる。内容の理解を進めるとともに、理解を深めるための質問や確認ができる。	<ul style="list-style-type: none">理解出来ない部分を、質問をしながら明らかにすることができる。内容を理解するために、知識を確認する質問や確認ができる。
知識を活用する	<ul style="list-style-type: none">応用問題を、学習したことを2つ以上組み合わせながら解決することができる。学習した内容を、日常の場面や他の分野、教科で学習した内容と結びつけて説明することができる。	<ul style="list-style-type: none">応用問題において、学習した概念を1つは使いながら取り組むことができる。学習した内容と、日常の場面や他の分野、教科で学習した内容が関連しているか、自らの考えを確認できる。
協同的に学ぶ	<ul style="list-style-type: none">相手の説明を傾聴し、気づきや疑問を見つけ、自らの意見を発展させることができる。自らの考えや説明を、自らの言葉で、内容のまとまりや内容同士の関連性も踏まえながら説明することができる。	<ul style="list-style-type: none">相手の説明を自らの活動や考えを止めて、傾聴することができる。自らの考えや説明を、内容のまとまりを意識するなど工夫しながら説明することができる。

画面共有時には上にコントロール画面
「詳細」にレコーディングボタン

- ①Zoomのマイ個人ミーティング等に一人で入り、「レコーディング」を開始



**夢実現のため
一緒に頑張
りましょう**

- ② 「画面共有」を使って、PC上のスライドや写真、ワークシートなど、解説に使う資料を開く。(②が先でもOK！)
- ③ PC画面に向かって解説を行い、終了後「レコーディング」を終了する。

【利点】

- 様々な資料をクリアに見せて説明できる。
- 撮影と録画、編集が一気にやれて楽。

【欠点】

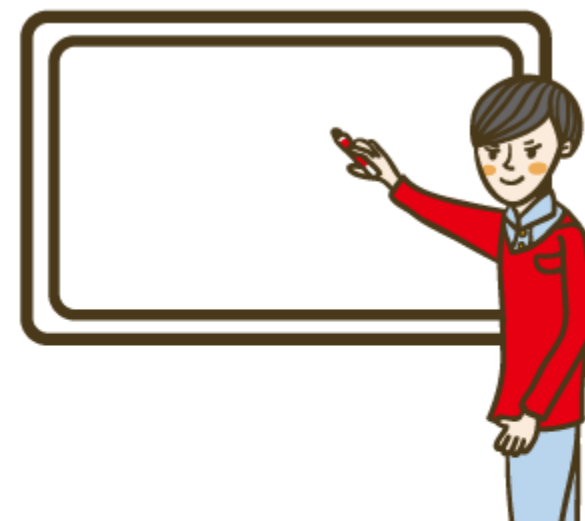
- 慣れないと、逆にやりにくく感じる場合も。
- インターネット環境が必要。

はじめに	準備物など		
方法	1 スライドを利用 する方法	2 黒板やテレビ を利用する 方法	3 手元を写す 方法
おわりに	動画づくりを始める前に		

【本日の目標】

Zoomを利用した動画撮影の方法を理解する

- ① Zoomのマイ個人ミーティング等に一人で入り、黒板等を写し「レコーディング」を開始。
- ② いつもどおりに授業を進める。【利点】
- ③ 終わったら録画を停止する。
ミーティング終了後、PCのZoomのフォルダに保存される(ドキュメントの中)。



※補足※ テレビにPCのスライドを写して撮影する際には、スライド専用のPCを利用するかスマホでもZoomで入り、そちらで撮影する必要があります。解説動画の中ではそれらができていないので、小窓の中で解説する形になって失敗しています。

【準備物】

・スマホ + マイク付きのイヤホン

【方法】

- ① PCのマイクをミュートする。
- ② スマホでも入室する。スマホ側は、ビデオを停止する。スマホは、ポケットに入れておく。
- ③ PC側（ウェブカメラか、接続したカメラ）で黒板を撮影し、音声はスマホで拾う形になる。

はじめに	準備物など		
方法	1 スライドを利用 する方法	2 黒板やテレビ を利用する 方法	3 手元を写す 方法
おわりに	動画づくりを始める前に		

【本日の目標】

Zoomを利用した動画撮影の方法を理解する

- ① Zoomのマイ個人ミーティング等に一人で入り、書画カメラ等で手元の資料を写し「レコーディング」を開始。
- ② 資料に書き込みをしたり、手元の資料を利用して説明をする。
- ③ 終わったら録画を停止する。



	スライド 利用	黒板/テレビ 利用	書画カメラ 利用
準備や編集	◎	○	○
取組みやすさ	○	◎	◎
見やすさ	◎	○	○
ポイント	普段からパ ワポを使っ ている場合 そのまま利 用できる	板書に次々 記入しなが ら説明でき るため、演 習解説など に有効	質問に来た 生徒に解い てみせるよ うに解説が できる

はじめに	準備物など		
方法	1 スライドを利用 する方法	2 黒板やテレビ を利用する 方法	3 手元を写す 方法
おわりに	動画づくりを始める前に		

【本日の目標】

Zoomを利用した動画撮影の方法を理解する

- ❑ NHKオンラインや、利用可能な動画等は活用する。
- ❑ 授業担当者による動画は、意味はある。
- ❑ 確かな学びをサポートし、アセスメントとしての評価、総括的な評価いずれも重要。
- ❑ 蓄積した動画やノウハウは貴重な資源。働き方改革にもつながるかも。
- ❑ 無理をしない。臨場感も大切に。

ご質問などありましたら、SSH研究室の溝上まで遠慮なく来られてください。メールや電話でも大丈夫です。